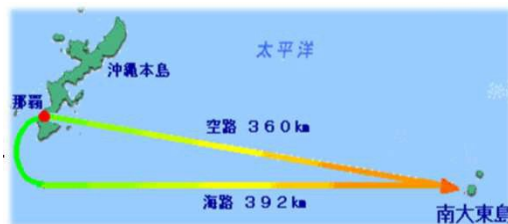


取組主体の概要

- ・所在地:沖縄県南大東村
- ・取組主体:南大東村
- ・管理運営:地産地消促進協議会
- ・栽培作物:リーフレタス等
- ・施設面積:170m² (保冷コンテナ2基連結・2棟)
- ・作業員数:5名 (令和6年5月現在)



導入技術

- ・コンテナ型植物工場 (沖縄セルラーアグリ&マルシェ(株) 製)
- ・統合環境制御システム (同上)

(温度、湿度、水温、CO₂等のモニタリング及び制御。別途Wi-Fiルーターを契約すれば、遠隔監視、蓄積データのAI分析も可能。)

植物工場の外観、内部の様子



台風等天候に左右されず、島内の店舗、ホテル、学校給食で葉物野菜を安定的に供給



1袋180円で販売されているコンテナ栽培野菜

導入経緯

- 夏場は暑さ、台風、少雨のため葉野菜の栽培が困難。
- また、台風等で船が入港できないと物資が途絶え、野菜不足・価格高騰が生じることから、野菜の安定生産・供給が課題であった。
- このため、平成29年度・令和元年度にコンテナ型植物工場を導入した。

取組の特徴・効果

- H29・R元年度沖縄離島活性化推進事業 (内閣府) によりコンテナ型植物工場を導入、H30.4月・R2.4月から稼働。(総事業費92,312千円 国費71,313千円)
- KDDIグループ企業の沖縄セルラーアグリ&マルシェ(株)が持つICT、IoTを活用した水耕栽培システムで、葉物野菜の周年生産が可能となった。
〔生産目標:1日約400株、年間約14トンの出荷〕
- 野菜棚にはLED照明、また、外部には遮熱用屋根を設置することにより、電気使用量を低減することが可能となった。
- 現在、主にリーフレタス、水菜、小松菜及びチンゲン菜の4種を栽培。村内5店舗で販売するほか、ホテル、飲食店、学校給食に供給。
- 今後は、学校給食における島内産のシェア向上を目指す。